

2014年度(2015年3月期) 第2四半期決算説明会



2014年10月31日

大正製薬ホールディングス株式会社

執行役員 齊藤 隆



2014年度第2四半期決算：概要

(億円)

	2013年度 2Q累計	2014年度 2Q累計	前年同期比 増減		予想比*
売上高	1,446	1,418	▲28	▲1.9%	▲52
セルフメディケーション	914	881	▲34	▲3.7%	▲50
医薬	531	537	+6	+1.1%	▲2
営業利益	215	162	▲53	▲24.5%	+12
経常利益	256	196	▲60	▲23.4%	+6
四半期純利益	165	126	▲39	▲23.8%	+6

注：金額は億円未満四捨五入 増減は百万円単位で計算

*2014年7月31日時点の予想との比較



2014年度第2四半期の概況（1）

- **セルフメディケーション事業（大正製薬 国内）**
 - 想定を上回る消費増税の影響、および7～9月の天候不順の影響などにより、期初予想を下回る
- **セルフメディケーション事業（海外）**
 - 全体としてはほぼ計画線の推移
 - ブランド（*Flanax*）買収の寄与により前年実績を上回る
 - タイの政情不安による消費鈍化の影響により期初予想を下回る

<ご参考：市場の状況>

- 国内OTC医薬品市場：前年同期比（4～9月）▲3.9%

（※4～6月 ▲6.4%、7～9月 ▲1.5%）

（インテージSDI・SRIデータをもとに当社推計、金額ベース）



2014年度第2四半期 主要ブランド売上高（SM国内）

（億円）

	2014年度 2Q累計	前年同期比 増減		予想比*
リポビタンシリーズ	353	▲23	▲6.1%	▲27
パブロンシリーズ	99	▲4	▲4.1%	▲3
リアップシリーズ	67	▲3	▲3.7%	▲3
リビタシリーズ	19	▲3	▲12.7%	▲4
胃腸薬シリーズ	19	▲1	▲4.8%	▲2
ナロンシリーズ	19	▲2	▲8.4%	▲1
コーラックシリーズ	16	▲1	▲7.4%	▲2

注：金額は億円未満四捨五入 増減は百万円単位で計算

*2014年7月31日時点の予想との比較



2014年度第2四半期の概況 (2)

海外事業

主な内訳

(億円)

	2014年度 2Q累計	前年同期比 増減		予想比*
海外事業	135	+5	+3.5%	▲2
SM海外	135	+5	+3.5%	▲2
海外ドリンク剤	47	▲0	▲0.7%	▲1
海外OTC医薬品	83	+5	+6.0%	▲1
アジア	69	+2	+3.5%	▲3
その他	14	+2	+20.6%	+2

注:金額は億円未満四捨五入 増減は百万円単位で計算

*2014年7月31日時点の予想との比較



2014年度第2四半期の概況 (3)

• 医薬事業

– 主要製品の実績(前年同期比)

• 感染症領域

– ゾシン(+3.1%): 適応追加が引き続き寄与

– クラリス(▲18.6%): 薬価改定、抗菌薬市場の縮小等により減少

• 炎症・免疫領域

– エディロール(+27.1%): 骨粗鬆症治療のベース薬として浸透

– ボンビバ: 2013年8月に発売、採用施設が着実に増加

• 代謝性疾患領域

– ルセフィ: 2014年5月に発売、安全性最重視で情報提供を強化

<ご参考: 市場の状況>

– 医療用医薬品市場: 前年同期比▲1.3%

・当社の主力市場である抗菌薬市場は▲9.2%

(経口: ▲12.0%、注射: ▲6.0%)

(Copyright 2014 IMS ヘルス、JPM2013年4月-2014年9月をもとに作成、無断転載禁止)



2014年度第2四半期 医薬事業：主要製品売上高

(億円)

	2014年度 2Q累計	前年同期比 増減		予想比*	
感染症領域					
ゾシン	125	+4	+3.1%	▲5	
クラリス	55	▲13	▲18.6%	▲5	
オゼックス	26	▲5	▲17.3%	▲5	
炎症・免疫領域					
エディロール	76	+16	+27.1%	+5	
ボンビバ	15	+12	+488.1%	+3	
代謝性疾患領域					
パルクス	35	▲4	▲11.0%	±0	
ルセフィ	24	+24	-	±0	

注：金額は億円未満四捨五入 増減は百万円単位で計算

*2014年7月31日時点の予想との比較



2014年度2Q：売上高・利益の増減要因

(前年同期比増減額)

売上高 (▲28億円)	セルフメディケーション事業 (▲34億円)	医薬事業 (+6億円)
営業利益 (▲53億円)	売上総利益* ▲20億円 (売上総利益率* 前年同期62.7% → 当期62.6%)	
	販管費 +33億円	
	(内訳)	
	・研究開発費	▲6億円
	・広告宣伝費	+18億円
	・販売促進費	+17億円
	・人件費	▲7億円
・その他	+11億円	
営業外損益：持分法投資損失 3億円(前年6億円の利益に対し▲8億円)		

*返品調整引当金繰入・戻入調整後

注：金額は億円未満四捨五入 増減は百万円単位で計算

2014年度：通期業績予想



(億円)

	通期予 (新)	前期比増減		通期予 (旧)	修正額*
売上高	2,930	▲30	▲1.0%	2,990	▲60
セルフメディケーション	1,789	▲29	▲1.6%	1,843	▲54
医薬	1,141	▲1	▲0.1%	1,147	▲6
営業利益	290	▲127	▲30.4%	305	▲15
経常利益	370	▲142	▲27.8%	385	▲15
当期純利益	240	▲87	▲26.6%	255	▲15
EPS(円)	296.05	-	-	314.56	-

予＝予想

注：金額は億円未満四捨五入 増減は百万円単位で計算

*2014年7月31日時点の予想との比較



2014年度：業績予想の修正

売上高：第2四半期までの状況を踏まえ、60億円の下方修正

- **セルフメディケーション事業(▲54億円)**

- 国内(▲52億円)：第2四半期までの一時的要因を反映し、
主要ブランドの売上予想を下方修正

- リポビタンシリーズ ▲28億円
- パブロンシリーズ ▲3億円
- リアップシリーズ ▲2億円

- **医薬事業(▲6億円)**

- 中間製品等：下方修正

営業利益・経常利益・当期利益：15億円の下方修正

- 販管費：第2四半期までの状況を反映して見直し
- 持分法投資利益：14億円 → 9億円に修正



2014年度の取り組み

- **セルフメディケーション事業（大正製薬 国内）**
 - 中期的なブランド強化・育成の時期
 - リポビタンシリーズ：需要の創造と新規ユーザー拡大
 - パブロンシリーズ：トップシェアの安定的確保
 - リアップシリーズ：発育毛剤市場の拡大
 - リビタシリーズ：生活習慣病領域への注力
- **セルフメディケーション事業（海外）**
 - 連結売上高比率10%の早期達成
 - アジアを中心とした、成長市場での事業展開
 - 買収した事業をプラットフォームとし、各国での存在感を高め事業を拡大



2014年度予想 主要ブランド売上高（SM国内）

（億円）

	通期予 （新）	前期比増減		通期予 （旧）	修正額*
リポビタンシリーズ	640	▲34	▲5.1%	668	▲28
パブロンシリーズ	257	▲3	▲1.0%	260	▲3
リアップシリーズ	140	▲16	▲10.3%	142	▲2
リビタシリーズ	42	▲5	▲11.1%	48	▲6
胃腸薬シリーズ	40	▲3	▲6.4%	42	▲2
ナロンシリーズ	39	▲2	▲4.1%	41	▲1
コーラックシリーズ	34	▲2	▲4.7%	36	▲2

予＝予想

注：金額は億円未満四捨五入 増減は百万円単位で計算

*2014年7月31日時点の予想との比較



2014年度予想：海外事業

主な内訳

(億円)

	通期予 (新)	前期比増減		通期予 (旧)	修正額*
海外事業	277	+23	+9.2%	277	±0
SM海外	277	+23	+9.1%	277	±0
海外ドリンク剤	94	+4	+4.8%	96	▲2
海外OTC医薬品	174	+19	+12.4%	172	+2
アジア	147	+15	+11.5%	146	+1
その他	27	+4	+17.5%	26	+1

予=予想

注:金額は億円未満四捨五入 増減は百万円単位で計算

*2014年7月31日時点の予想との比較



2014年度の取り組み

• 医薬事業

－ 販売、マーケティング

- 感染症領域のリーディングカンパニーとして幅広い情報提供活動を展開
- 骨粗鬆症治療剤「エディロール」「ボンビバ」の育成
炎症・免疫領域の拡大
- 2型糖尿病治療薬「ルセフィ」の情報提供を強化
糖尿病治療における新たな選択肢の提供

－ 研究開発

- 「感染症」「整形外科疾患」「精神疾患」「代謝性疾患」を重点領域とする、新薬創製に向けた取り組み



2014年度予想

医薬事業：主要製品売上高

(億円)

	通期予 (新)	前期比増減		通期予 (旧)	修正額*
感染症領域					
ゾシン	265	+11	+4.4%	270	▲5
クラリス	138	▲26	▲15.9%	145	▲7
オゼックス	64	▲8	▲11.1%	69	▲5
炎症・免疫領域					
エディロール	165	+24	+17.4%	155	+10
ボンビバ	36	+24	+193.4%	30	+6
代謝性疾患領域					
パルクス	70	▲9	▲11.2%	70	±0
ルセフィ	27	+27	-	27	±0

予=予想 注:金額は億円未満四捨五入 増減は百万円単位で計算

*2014年7月31日時点の予想との比較



2014年度予想：売上高・利益の増減要因

(前期比増減額)

売上高 (▲30億円)	セルフメディケーション事業 (▲29億円)	医薬事業 (▲1億円)
営業利益 (▲127億円)	売上総利益* ▲32億円 (売上総利益率* 前年同期62.4% → 当期61.9%)	
	販管費 +95億円	
	(内訳)	
	・研究開発費	+6億円
	・広告宣伝費	+27億円
	・販売促進費	+27億円
	・人件費	▲3億円
・その他	+37億円	
営業外損益：持分法投資利益 9億円(▲15億円)		

*返品調整引当金繰入・戻入調整後

金額は億円未満四捨五入 増減は百万円単位で計算



医療用医薬品：開発品の状況

- 2014年度第1四半期決算発表時(7月31日)からの変更点

(2014年10月31日現在)

TT-063 (エスフルルビプロフェン含有消炎鎮痛貼付剤)	
予定適応症	変形性関節症(変更前:変形性関節症等)
変更点	フェーズ3 → 申請中 2014年10月20日に承認申請を行ったことを発表
NT-702	
予定適応症	気管支喘息
	閉塞性動脈硬化症に伴う間歇性跛行
変更点	フェーズ2 → 削除 臨床試験成績およびこれまでに得られた知見を総合的に検討した結果、本剤の開発を中止
TS-121	
予定適応症	うつ病
変更点	新たにフェーズ1に追加



医療用医薬品：新薬パイプライン(1)

大正製薬開発品：フェーズ2以降

(2014年10月31日現在)

	<u>特長他</u> 予定適応症	開発形態 国内／海外	オリジン
申請中			
TT-063 (外用)	<u>エスフルルビプロフェン含有消炎鎮痛貼付剤</u> 変形性関節症	トクホン共同 国内	トクホン
フェーズ3			
CT-064* (経口)	<u>ビスホスホネート系骨吸収抑制剤</u> 骨粗鬆症	中外製薬共同 国内	ロシュ
フェーズ2			
TS-091 (経口)	<u>過眠症状改善作用</u> 中枢性過眠症	自社 国内	大正製薬

*CT-064：一般名：イバンドロン酸ナトリウム水和物、中外製薬における開発コード：RG484



医療用医薬品：新薬パイプライン(2)

大正製薬開発品：フェーズ1

(2014年10月31日現在)

	対象疾患	自社／導入	国内／海外
フェーズ1			
TS-071* (経口)	2型糖尿病	自社	海外
TS-111 (経口)	うつ病	自社	海外
TS-121 (経口)	うつ病	自社	海外

*TS-071：一般名：ルセオグリフロジン水和物、国内販売名：ルセフィ



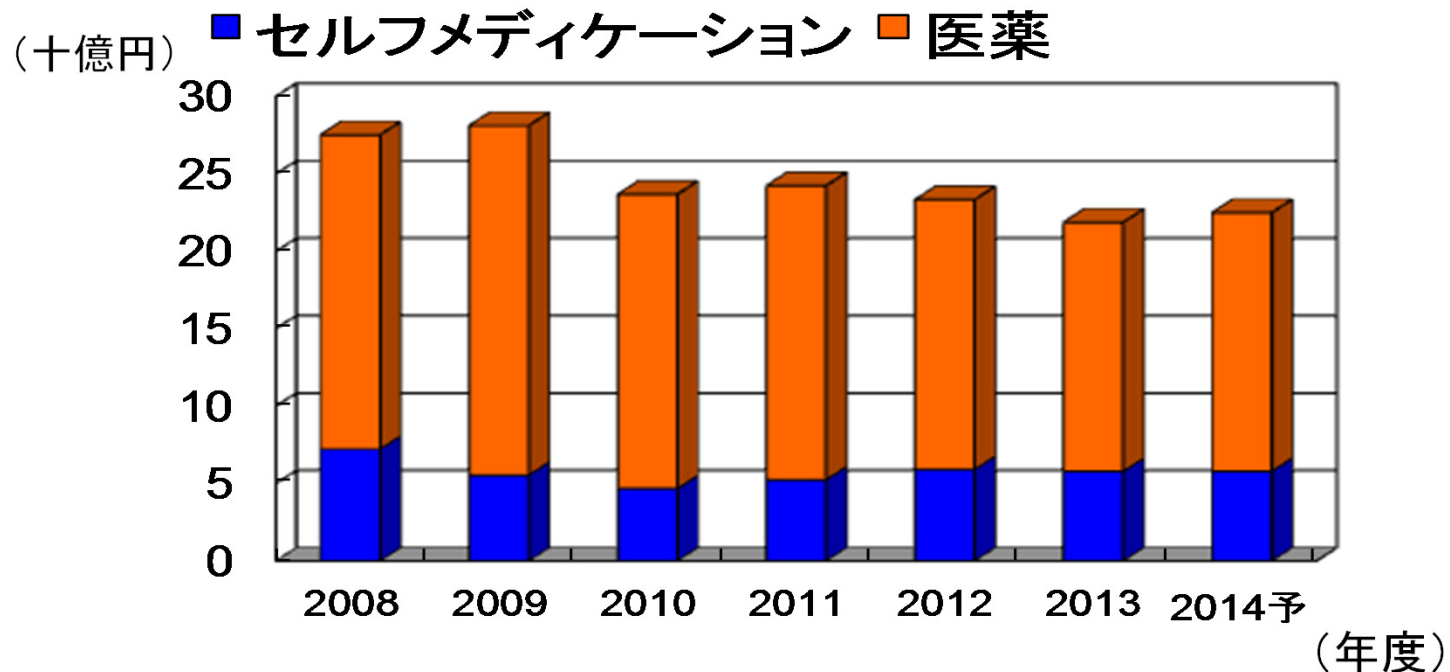
研究開発費の動向

2014年度2Q実績：101億円(前年同期比▲6億円)

(内訳)SM事業：前年度並み、医薬事業：▲6億円

2014年度通期予想：8億円引き下げ、225億円(同+6億円)

(引き下げ額の内訳)SM事業：▲3億円、医薬事業：▲5億円





配当について

- 2014年度配当(予想): 1株当たり110円
 - 中間配当: 50円/株を2014年12月に実施予定
 - 期末配当(予想): 60円/株

1株当たり配当金、配当性向の推移

